

ANNUAL REPORT 2018

2019年1月期 アニュアルレポート



目次

社長挨拶	_____	3 ページ
財務ハイライト	_____	4 ページ
事業概況	_____	6 ページ
組織図	_____	8 ページ
企業活動 (CSR)	_____	8 ページ
会社概要	_____	13 ページ
沿革	_____	14 ページ



経営理念 『自然と人間が^{みんな}いっしょに幸せになる仕事』

社会・経済構造が劇的な変化を遂げ、確たる指標なき時代、企業は自身の哲学を掲げることに
よって自らの道を切り拓かねばなりません。哲学のない企業に未来を創造することはできない。
—— 私どもが自ら質すなかで出した答えは

「自然と人間（みんな）がいっしょに幸せになる仕事」というキーワードです。

ここにはく地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主＞という5つのステークホルダーとの共存共栄が謳われています。この5つのステークホルダーとの共存による「幸せの輪」の創造こそ、私どもが目指す企業像です。

たとえば、どんなに企業の利潤が上がっても、その事業が地球の環境破壊を引き起こしていたり、社会倫理に反していたりしたら、その企業は優良と呼べるでしょうか。そこに働く社員や家族は幸福と言えるでしょうか。ひとりひとりの社員が、自分の仕事がお客様に喜んでいただける、社会に貢献していることを実感できてはじめて自らの仕事に誇りと責任感を持つことができます。そして、その責任感はビジネスパートナーとの相互信頼を育み、共に成長しお互いの事業の成功と発展にもつなげられるのです。さらに事業の成功は利潤を生み、株主の皆様にもご満足いただくことができると考えます。

白崎コーポレーションはこの「幸せの輪」の実現に向けて、ここに掲げた経営理念をすべての企業活動の礎とするべく胸に刻み込み、社会から尊敬される企業となれるよう、そしてトップを含め社員みんなが夢を語り合える企業となれるよう、今後も自らを厳しく律しながら挑戦を続けてまいります。



経営方針

- 一、 私たちはいつも環境に心を配り、地球の繁栄につくしていきます。
- 一、 私たちは顧客満足度の向上に努め、お客様の信用をたかめていきます。
- 一、 私たちはビジネスパートナーと共に歩み、確かな信頼関係を築いていきます。
- 一、 私たちは日々の仕事を通して自己を高め、豊かな未来をつくっていきます。
- 一、 私たちは適正な利潤を追求し、株主のみなさまの期待に応えていきます。



ミッション・ビジョン

ミッション 私たちは事業を通じて社会に貢献できる人を育てます。

ビジョン 全社員が自分の会社に誇りを持てるような最高の中小企業になります。



社長挨拶

「2018年度（64期）を振り返って」

代表取締役社長 白崎 弘隆

昨年は羽生結弦選手が平昌オリンピックで連覇を達成し、大谷翔平選手が大リーグで投打の活躍を見せ、さらに大坂なおみ選手がテニスの全米オープンで優勝するなど、スポーツ界では日本の若い選手が大活躍をしました。その一方で、経済界では日産の元会長ゴーン氏が逮捕されるというニュースや、中国経済の停滞とともに中米間の貿易交渉の行方の不透明さもあり、年の後半からは景気の悪化も心配されるようになりました。

このような状況の中で、弊社は売上高と売上総利益はアップしましたが、経常利益が若干のダウンという結果になりました。サプライビジネス事業においては昨年に続き厳しい業界事情の中で経費を抑えて新規開拓に注力した結果、売上・売上総利益・経常利益のすべてを増やすことが出来ました。また、グリーンナップ事業においては新しい市場の開発に力を入れていますが、目に見える成果を出すためにもうしばらく時間がかかりそうな状況ですので、出来るだけ早い時期に良好な市場に育てることがグリーンナップ事業を大きく伸ばすための最重要課題と考えています。

今年は新天皇の即位もあり、新しい気持ちで働き甲斐のある働きやすい環境の中、社員がのびのびと活躍し、成長できる環境をより充実させていきます。また、若い社員が出来るだけ早く戦力になるような組織的な教育こそが成功のための絶対条件ですので、今後はいろいろな手段を用いて教育の効果を上げていきたいと考えています。


 財務ハイライト

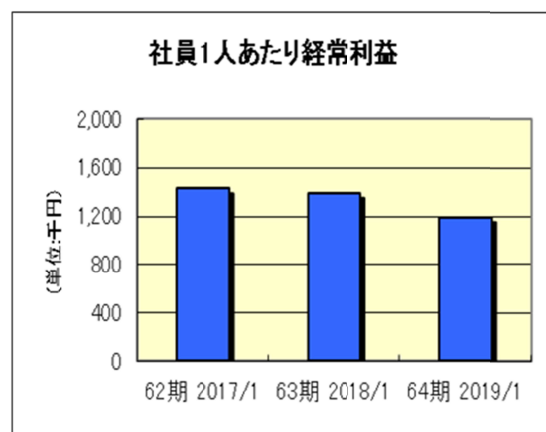
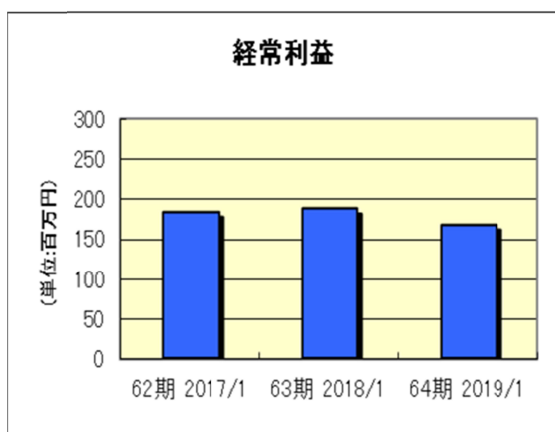
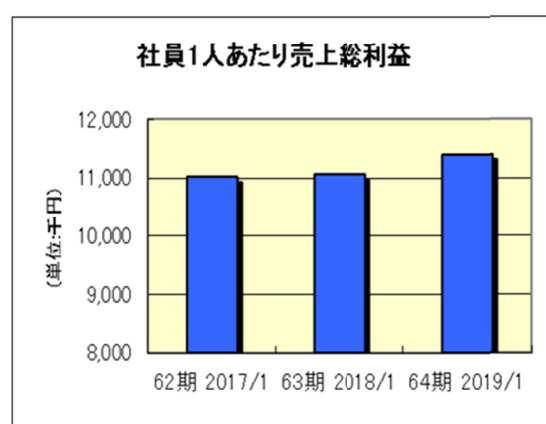
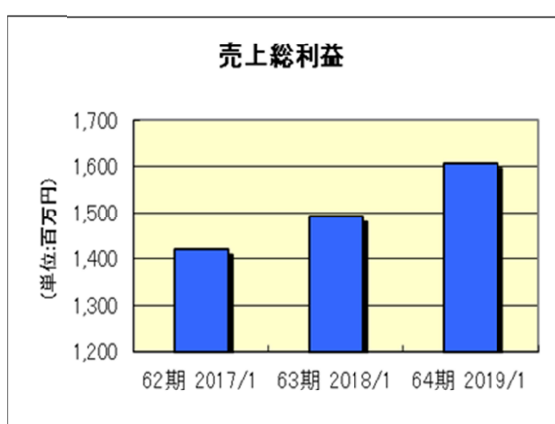
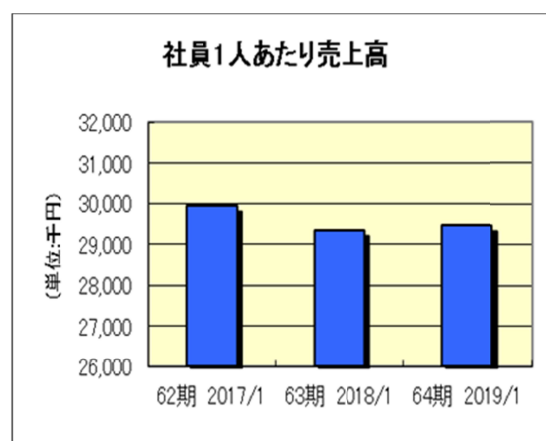
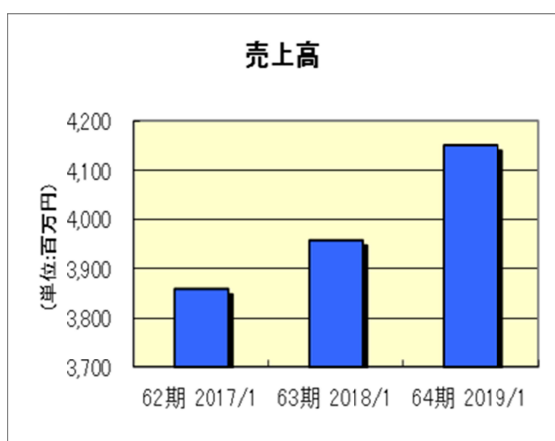
	単位	62期 2017/1	63期 2018/1	64期 2019/1
売上高	千円	3,860,205	3,959,322	4,152,724
売上総利益	千円	1,420,122	1,491,153	1,606,970
売上総利益率	%	36.8%	37.7%	38.7%
経常利益	千円	184,231	187,723	167,767
経常利益率	%	4.8%	4.7%	4.0%
総資産	千円	2,429,770	2,660,315	2,697,249
自己資本	千円	1,123,895	1,183,684	1,249,877
自己資本比率	%	46.3%	44.5%	46.3%
総資産経常利益率	%	7.6%	7.1%	6.2%

2017年1月期（62期）から2019年1月期（64期）までの弊社の決算を掲載しています。

昨年度の売上高については、再生トナーカートリッジや事務用消耗品の販売を行うサプライビジネス事業ではエンドユーザーの新規開拓が実を結び19億3,770万円と前年比2.0%の増収となりました。また、防草シートや緑化資材の販売を行うグリーンナップ事業では農業分野および民間企業分野での受注が伸び21億7,784万円と前年比7.7%の増収となりました。これに太陽光発電事業の売電収入を含め、会社全体でも41億5,272万円と前年比4.9%の増収となりました。

利益面については両事業の売上増に伴い売上総利益は7.8%増加しましたが、社員採用や設備更新など将来に向けた投資もあり、経常利益は1億6,776万円と前年比10.6%の減益となりました。

2019年度は既存の商材に加えて、お客様の問題解決が出来る「新たな付加価値」を備えた商品・サービスを提案できる企業を目指して活動していきます。





事業概況

■グリーンナップ事業

常務取締役 中川 豪

2018年は各地で地震、豪雨、猛暑と多くの災害が発生しました。中でも2月の北陸地方の豪雪では本社や物流センターの社員が通勤できない状況が続き、物流もストップし、お客様には納期や対応の面で多大なご迷惑をお掛けしましたが、多くの方々から励ましのお言葉やねぎらいのメッセージをいただき、大変感謝しています。

昨年度を振り返ると主力商品である「チガヤシート」「目地バリシート」の公共市場への販売低下が影響し、売上が鈍化傾向になりました。この要因として、国土交通省のNETIS（新技術情報提供システム）が掲載期限を迎えたこと、各社の類似品が多数参入してきたことなどが考えられます。今後は主力商品の販売戦略を見直し、流通や価格・プロモーションなど販売店様やお客様の立場で更なる利便性を追求していきます。また、次の柱となりうる新商品、特につる性雑草の侵入を防ぐ「つるガード工法」、高耐久性のある「チガヤシートGUタイプ」、そして耐久性と重量感を兼ね備えた「マクレーンシート」を主力商品に育てることは喫緊の課題です。これに加えて、差異性を創り出す社員育成の充実を図ることもこれからの重要な課題です。近年は新卒者や中途者の採用、社内間での異動によってこの事業にかかわる社員が増えてきたので、一人ひとりの特徴や良さを引き出しながら、組織全体を強くしてブランド力向上とお客様に選ばれる事業戦略に挑戦していきたいと考えています。これらの人材育成やブランド力向上の一環として弊社ではNPO緑地雑草科学研究所の支援を行っています。このNPOは設立されて10年以上経ちますが、年々個人会員や賛助企業も増えてきており、毎年のセミナーやシンポジウムの開催、刊行物の発行や雑草インストラクター養成塾などの活動も活発化してきました。弊社も雑草インストラクター認定者8名を擁し、ハード（商品・工法）とソフト（調査・診断・提案）の両面からの充実を図ることによって、防草シート販売に留まらない雑草問題解決のプロ集団を目指していきます。

一方、防草シート業界では市場の拡大やお客様ニーズの多様化によって、近年多くの会社の参入や様々な商品の導入が進んでいます。しかしながら、すべての商品が「防草シート」としての機能や品質を満たしているか、お客様が求めている性能や期待している耐久性を提供しているかというのは疑問に感じるところです。弊社は業界のリーダーとして、お客様に納得・安心して使用していただくための情報を発信し、業界のスタンダードとなる品質に関する基準作りに着手していくことも大事な役割と考えており、今後は産官学の連携を取りながらそれらに挑戦していきたいと考えています。今年は今和元年、時代は目に見える形でシフトします。市場環境や競争環境の変化に適応しながら、2019年度は目に見える成長、実感できる成長を目指します。

■ サプライビジネス事業

取締役 相澤 英昭

サプライビジネス事業の昨年度を振り返ると、収益の柱としているリユーストナーカートリッジの市場環境に大きな変化はなく依然として厳しい状況が続いていますが、弊社の独自性を強化することと各業務の効率化を図ることで前期以上の利益を出すことが出来ました。

現在のリユーストナーカートリッジ市場は、ペーパーレス化やプリンタの出荷台数が減少傾向になっている影響から成長の伸びが鈍化しています。また、海外から流入してくる模倣品やコンパチ品、すなわちリユーストナーカートリッジとは異なり全てのパーツを新たに製造して組み立てた違法性の高い製品が増えてきていることも、市場環境を悪化させる一因となっています。さらに原材料や運送費の値上げなど収益を圧迫する要因も増えてきています。このような市場環境の中で弊社としては同業者との差別化を図ることが重要な課題であるという認識から、ここ数年は独自性強化に注力してきました。

特に注力している点は不具合発生率の低減です。リユーストナーカートリッジは企業の経費削減や環境負荷低減に貢献できる素晴らしい製品ですが、一方で純正品として一度使用した筐体や一部のパーツを再利用することから純正品に比べ若干不具合が発生しやすいという側面があります。不具合が発生した際のアフターフォローはもちろん重要であり、弊社でも不具合発生時の受付から代替品出荷までスムーズな対応が取れる組織体制を構築しています。しかしながら不具合発生はお客様の手を煩わせるだけでなく弊社の効率化も阻害する一因となるため、本来は可能な限り発生させないことが望ましい状態です。そのためお客様からのご指摘内容を営業担当がしっかりと吸い上げ、社内で情報共有するという製販一体となった改善を強化してきました。その結果、前年比で約13%、直近3年間の累計で約32%の不具合発生率を低減させることが出来ました。不具合対策の活動に終わりはありませんが、お客様が安心してご使用いただけるよう今後も着実に改善していきます。

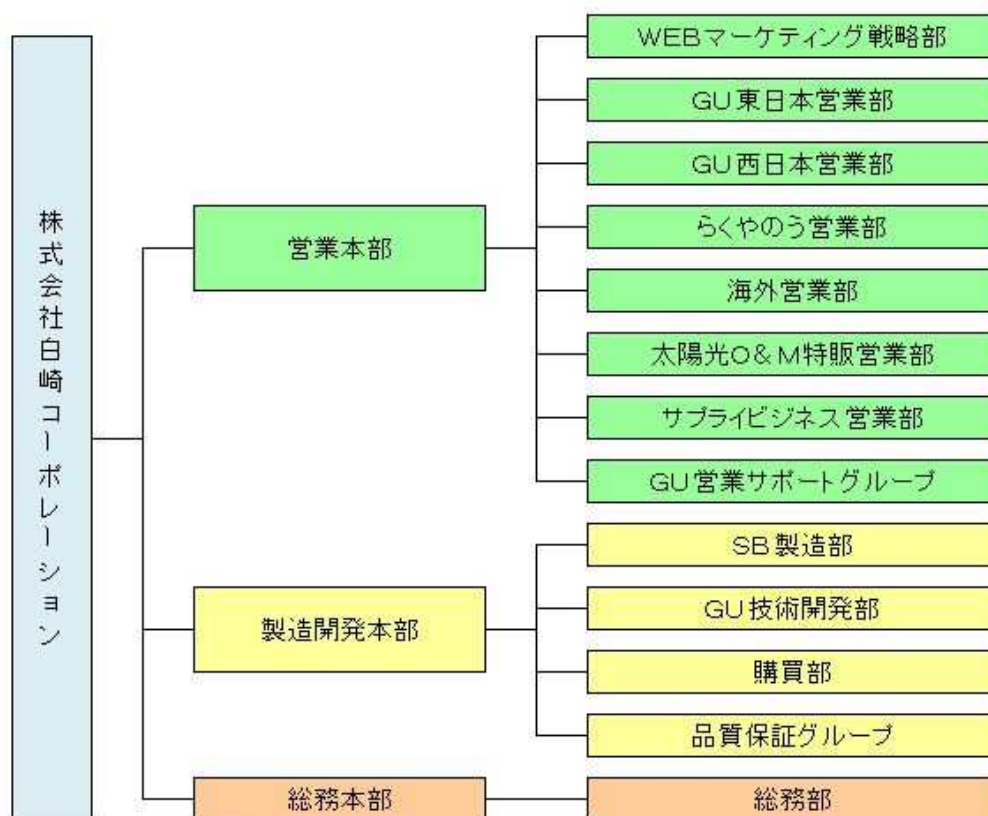
業務の効率化については、以前は製造部門や間接部門を中心に進めてきましたが、近年営業部門でも体制の見直しを行い事業全体での効率改善に取り組んだ結果、一人当たりの売上・粗利・営業利益等も着実に改善してきています。今後もサービスレベルを向上させながら効率化を進める取り組みを強化していきます。

また、お客様の使用環境に合った提案も継続して進めています。お客様がプリンタを使用する頻度や出力データの内容、出力物の使用用途など様々な聴き取りをさせていただき、お客様に最適な提案が出来るよう心がけています。場合によってはお客様先でのサンプルテストや社内での評価テストなどを行い、安心してリユーストナーカートリッジを使用出来る環境をご提案いたしますので、ご興味ございましたらお気軽に弊社へご一報ください。

2019年度もこれらの取り組みを更に強化しながら、お客様の経費削減と利便性向上ならびに業界の発展に尽力してまいりますので、引き続きご支援、ご指導よろしくお願いたします。



組織図




CSR（企業活動）

先進国では社会が豊かになるに従い経済成長以外のさまざまな価値観が生まれ、企業評価の指標として、法律や制度で定められた範囲を超えて「よりよい行動」をすることを望ましいとする傾向が生まれています。弊社では経営理念および経営方針として企業活動をめぐる5つのステークホルダー（地球環境・お客様・ビジネスパートナー・社員とその家族・株主）との共存共栄を、また、ミッションとして社会に貢献できる人財育成を掲げてCSR活動体制の整備と強化を行っています。企業に求められる社会的責任の内容は時代とともに変化していきます。積極的な働きかけにより地域社会の抱えている問題を十分認識したうえで事業を通じて蓄積したノウハウや能力を社会に還元し、問題解決に貢献していくことが、地域社会からの信頼につながるものと考えています。

【1】法令及び企業倫理の遵守

■企業倫理

2001年に企業倫理の徹底を図るため、以下の5項目からなる「倫理二十五箇条」を制定しました。

1. 職場環境
2. 5S活動
3. 環境
4. 営業・業務活動
5. 会社資産の保護

これを社員全員が「経営理念」「経営方針」といっしょに毎日の朝礼で唱和をすることにより、理解の徹底から実行を図っています。

■お客様情報及び個人情報の管理

社内の情報管理については、以下の5つのセキュリティールールを定めて情報管理研修を実施するとともに全社員から誓約書を徴収し、情報漏洩の未然防止を図っています。

1. パソコンの利用に関するセキュリティールール
2. 外部媒体の利用に関するセキュリティールール
3. メール利用に関するセキュリティールール
4. インターネット利用に関するセキュリティールール
5. 白崎ネット（社内グループウェアシステム）へのアクセスに関するセキュリティールール

また、特に個人情報の取扱いについては、その取得から利用・開示・利用停止・消去に至る詳細な運用ルールを定め、個人情報の保護に努めています。

【2】社会性報告

1. 社員とともに

弊社の使命は「事業を通じて社会に貢献できる人を育てる」ことであり、そのためには「社員は財産（人財）」と考えています。社員が安心して働ける環境を整え、自ら考え、学び、行動できるような様々な制度や仕組みを作り、社会に貢献できる人づくりを推進しています。

■新卒採用 ～若いフレッシュな感覚に期待～

2007年から新卒採用活動を積極的に推進しています。若手社員をリクルーターに選抜し、彼らを中心に会社説明会や面接等を運営しています。2017年4月に7名、2018年4月に8名、2019年4月に2名の有望な人財を採用することができました。

■社員教育

社員の能力開発と挑戦する組織風土の形成を目指して、2005年度に教育体系をOJT・集合研修・自己啓発の三本柱として再編成を行い、2006年度から本格的な社員教育を実施しています。社員教育の基本は職場における指導・育成であるOJTにありますが、OJTでは補い切れない能力開発の場として階層別やテーマ別の社内研修を推進しています。2018年度は、部長職を対象としたマネジメント能力開発研修に外部講師を招いて実施しました。

また、通信教育受講や社外研修等参加の費用補助も実施しており、社員の積極的な自己啓発の取り組みを支援しています。

■ビジネスキャリア検定試験と公的資格 ～専門能力と管理能力～

自己啓発の動機付けと取得能力を評価・測定するツールとして「ビジネスキャリア検定試験」の受験を推奨しており、春と秋に実施される試験には毎年多くの社員が受験しています。合格者は社内の掲示板に掲載し昇格試験にも活用しています。例えば、部長職であれば職務分野2級1科目以上および共通分野(労務管理、経営戦略など)3級1科目以上の合格が必須となっており、専門能力と管理能力の両面の自己啓発が要求されます。また業務に関連した公的資格への挑戦も奨励しており、難易度に応じてビジネスキャリア検定合格と同等の評価をしています。

■目標管理制度 ～目標は自分で考え、決めて、実行～

弊社の目標管理制度は、社員一人ひとりがそれぞれの部署の目標をもとに上司との話し合いを通じて自分の仕事の目標を立てて計画的に取り組み、上期・下期の年2回達成度合を評価する制度です。個人の目標は上司から与えられるものではなく、まず自らが考えて上司との個人面談を通して十分に話し合っ決めてことになっており、社員の自発的な行動を促す仕組みとなっています。

■褒める社風の定着 ～社員表彰制度～

会社や社会に貢献した社員を全員で褒め称えるために、以下の4つの表彰制度を制定し、広く社内に公開しています。

1. 永年勤続表彰
2. 白崎MVP
3. 改善提案優秀賞
4. 5S大賞

特に白崎MVPは2001年から続いており、社員相互により推薦された中から選抜されます。それらはすべてが公開され、ボランティア活動や他部門との連携・協力など、自分の業務以外の功績による推薦も多数見受けられます。

2. 地域社会とともに

企業も社会の一員であると考え、積極的な社会貢献活動に取り組むことにより社員の社会貢献意識を高めています。さまざまな活動を通じて地域の方々との交流を図り、地域社会と共に成長していきたいと考えています。

■NPO法人への支援

NPO法人「緑地雑草科学研究所」は、人々の生活圏の緑地環境を創り向上させることを目的として設立されました。そのNPO法人を支援することにより適切な雑草の制御技術や利用技術の確立と普及活動に貢献しています。

■納涼祭

近隣住民の方々を本社に招待しての納涼祭は毎年恒例の行事として定着しています。弊社のOBの方々も多数参加され、社員と一緒に焼きそばや焼き鳥、イベントなどを楽しむ交流の場として非常に好評をいただいています。2012年からは若手社員が中心となって企画から実施までの運営を行い、若手社員と他部署の社員とのコミュニケーションを深める良い機会にもなっています。

【3】 環境保護活動の実績

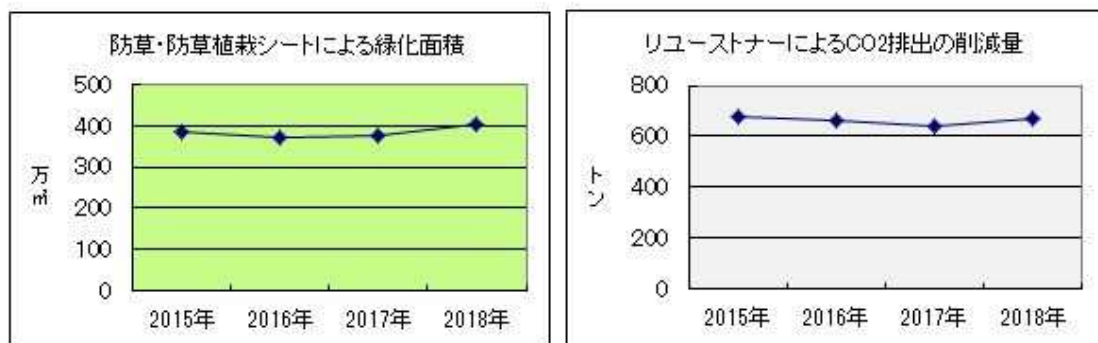
弊社では限られた資源を有効に活用し、出来る限り環境に負担をかけない企業活動に全事業所で取り組んでいます。

■防草緑化事業による環境保護

雑草を抑える防草シートや雑草を抑えながら目的の植物を育てる防草植栽シートを施工することにより、公園や道路の法面、太陽光発電施設等の雑草問題を解決して、貴重な緑地資産の価値を高めることが出来ます。また低コストでの管理が可能になるため、維持にかかるエネルギーを削減しながら社会の景観美化を推進することが出来ます。2018年度は405万㎡の緑化を行いました。

■トナーカートリッジリユース事業による環境保護

トナーカートリッジ本体を再利用するリユーストナーカートリッジは、限りある資源を有効に活用する循環型社会において重要な役割を担っています。リユーストナーカートリッジを使用することにより、本体のプラスチックの原料である原油を1本あたり2.6リットル削減できるという効果があります。また、リユーストナーカートリッジは本体のプラスチックの製造や廃棄処理におけるCO₂の排出量の削減にもつながるため、1本あたり3.4キロのCO₂が削減できるという効果もあります。2018年度は674トンのCO₂排出量削減につながりました。



■ 廃棄物のリサイクル

工場の生産工程で投入される材料や資材のロスを低減する、あるいはコピー用紙の再利用を行うなど、社内の省資源化に努めています。また発生したトナーカートリッジ等の廃棄物はプラスチックの原料や金属資源として、梱包材等に使用されていたプラスチックの廃棄物は梱包用ラップの原料としてリサイクルすることにより、資源の有効活用を行うと同時に最終処分量の削減に努めています。

■ 太陽光発電の導入

太陽光発電のメリットはクリーンな自然エネルギーであり、地球温暖化の原因となるCO₂の削減に大きく貢献できます。弊社が所有している太陽光発電所には鯖江太陽光発電所（福井県鯖江市）、三国太陽光発電所（福井県坂井市）、鹿児島太陽光発電所（鹿児島県鹿屋市）の3箇所があり、2018年度は約103万キロワットの発電を行いました。これは、弊社の全事業所で使用している1年間の電力量の約2倍にもなります。

また、これらの太陽光発電所にはグリーンナップ事業で販売している「太陽光発電用防草シート」が使われており、太陽光発電の障害となる雑草の繁茂を長期間抑えることで、効率の良い発電を維持することが出来るようになっていきます。


 会社概要

会社名 : 株式会社白崎コーポレーション 設立 : 1955年7月2日 資本金 : 9,800万円 代表者 : 代表取締役社長 白崎弘隆 従業員数 : 137名(男86名、女51名) 事業内容 : 防草シート、防草植栽シート、その他緑化資材の開発・製造・販売 リユーストナーカートリッジの設計・製造・販売 トナーカートリッジ、インクリボン、その他事務用消耗品(OAサプライ品)の購入販売	
本社・福井工場	〒916-0076 福井県鯖江市石生谷町11-23 TEL:0778-62-2200(代表) FAX:0778-62-3336(代表)
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-3 小西ビル TEL:03-6892-4400(グリーンナップ事業直通) TEL:03-3667-9881(サプライビジネス事業直通) FAX:03-3667-9880(共通)
西日本営業所	〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通3-90-1 尼崎K.Rビルディング TEL:06-6430-1713(グリーンナップ事業直通) TEL:06-6430-1711(サプライビジネス事業直通) FAX:06-6430-1715(共通)
九州営業所	〒812-0042 福岡県福岡市博多区豊1-6-25 TEL:092-473-1452(グリーンナップ事業直通) TEL:092-473-1430(サプライビジネス事業直通) FAX:092-473-1436(共通)
福井物流センター	〒915-0801 福井県越前市家久町27-1-1 TEL:0778-42-8353(注文業務窓口) FAX:0778-42-8515(注文業務窓口) TEL:0778-21-8500(倉庫業務窓口) FAX:0778-21-8502(倉庫業務窓口)



沿革

1949年	個人創業
1955年	白崎テープ工業株式会社設立
1994年	白崎テープ株式会社と株式会社羽田が合併 株式会社白崎コーポレーションに称号変更、鯖江市石生谷町に本社設立
1996年	防草緑化事業への参入、トナーカートリッジ再生事業への参入
1997年	西日本営業所開設
1999年	九州営業所開設
2001年	ISO14001全事業所認証取得
2004年	ISO9001全事業所認証取得
2005年	ホールディングカンパニー制に移行
2011年	事業会社を統合
2012年	済南古菱納普商貿有限公司設立